

源流の会設立顛末記

1997年、カバナーを終えたところから、Olen Arnoldの「Golden Strand」の翻訳に1年かけて挑戦しました。かなりの出来栄えに満足して、シカゴ大学が出版した「Rotary?」の翻訳を手がけました。これをきっかけに、ロータリーの歴史的な文献を収集して、それを翻訳する作業がライフワークになりました。

1999年から、私の個人的なホームページ「ロータリーの源流」を開設し、その中に収集した文献を集めたコーナーを設けて、pdf化した文献を収録しました。当初はロータリー文庫の資料をコピーしたものを集めていましたが、だんだん限界を感じて、その後は直接RI本部の資料室を訪れて、文献収集に当たりました。しかし、RIが保管している文献も劣化がひどくて、徐々に貸出禁止やコピー禁止の文献も増えてきたことから、紙の文書として保存することの愚かさを感じ始めました。

また同時に、阪神大震災ですばらしい蔵書量を誇っていた兵庫ロータリー文庫が一瞬にして瓦礫の山に化したことを思い出して、今後の利便を考え、すべての文献をデジタル化して保管すると共に、これをウェブ・サイトを通じて閲覧に供するという考えが浮かびました。

そのためには私一人で管理するよりも、世界中のロータリアンに協力してもらって、言語別のウェブ・サイトの図書館をつくったらどうかと考えて、ロータリー・フェロシップとして「ロータリー・アーカイブス」の設立を提案したのですが、当時はその必要性を理解する理事は少なく、結局承認されませんでした。

従って個人で文献の収集に取り組み、本を探すだけのためにせつせとアメリカに足を運ぶ時期が続きました。この頃になると、いろいろな方面から圧力がかかってくるようになりました。ロータリーの友は著作権を理由に、ウェブ・サイトから「ロータリーの友」を削除するように、再三要請してきました。私は、当然公開すべきだという考えを持っていますのでそれを拒否したところ、RIに直訴したらしく、今度はRIから執拗に削除の要請がくるようになりました。

そこで考えたのが、パスワードを作って会員以外には閲覧できないようにすれば、著作権侵害にはあたらないという発想です。さらに会費を徴収すれば、ロータリアン共有の財産として、このウェブ・サイトを未来永劫に維持することも、本の購入費用に充てることもできます。今までは私が個人でウェブ・サイトの管理運営も文献購入もやってきたので、私の経済的負担も減らすこともできてまさに一石二鳥です。

外部からの妨害を受けないように、また「源流の会」の存在価値を高めるためにも、入会されたパスト・ガバナーには顧問就任をお願いしたところ、あっという間に顧問30名、会員350名の大きな組織になりました。

この「源流の会」の文献収集の哲学は、ロータリー運動の原点となる一次文献をなるべく多く集めることです。ロータリーに奉仕理念を提唱したのは、アーサー・フレデリック・シェルドンですから、まず彼の文献を集める作業を優先しました。

インターネットを通じて、アメリカの国会図書館の蔵書目録が入手できることを知り、シェルドンの文献を調べたところ、100冊にも上る著書があることが分かりました。そこでその目録をアメリカ

の古本屋のネット・ワークに流したところ、どんどんとシェルドンの著書が入手できるようになりました。古本の価格は需要供給の関係で決まるのか、あつてないに等しく、1冊150ドルから2ドルまで様々でした。馬鹿にならないがアメリカからの航空運賃です。残念なことには、現在は小口の船便はありません。

文献収集の圧巻は、*The Rotarian* を1910年の創刊号から100年分全冊、国際大会議事録を1910年から現在までの100年分を全冊そろえたことです。これは、たまたま、RIの資料室が重複資料の処分をしていることを知り、これをすべて買い取りました。その後、ロータリーの友も全冊が揃い、現在はまもなく蔵書8000冊になろうとしています。

これらの文献をテキスト付のpdfにするのが大変な作業です。このテキスト化が大きなメリットであり、これによって文章のコピーや検索が簡単にできるようになります。

最初は1冊ずつフラット・スキャナーを使って手作業でスキャンしていましたが、連続スキャナーがでてから、作業は大変楽になりました。しかしスキャナーの故障が多く、現在のスキャナーは4代目になります。

ただし、連続スキャナーにかけるには、本の背表紙を切つてばらばらにする必要があり、借用した文献は相変わらず、フラット・スキャナーを使わざるを得ません。

現在、ロータリー文庫のご厚意で所有しているすべての文献を、「源流の会」がデジタル化することになり、その作業を会員である日本抵抗器の専従スタッフがボランティアとして受け持つことになり、蔵書数は飛躍的に増加しています。

「源流の会」はインターネットによる、会員専用の図書館ですから、全員がその環境を持っています。従来から運営している「ロータリーの源流」では、2004年から「源流セミナー」と称する勉強会を、年間2-3回開催しています。これは公開されている組織ですので誰でも参加することができます。原則として、私のホーム・グラウンドである尼崎で開催していますが、他の地区からの要望があつて、その地区でお世話を頂くことを条件に、各地で開催しています。現在までに、新潟、前橋、札幌、宮崎、佐賀、名古屋、東京と19回開催しています。

最近になって、「源流の会」を通じて、文献の販売をしたらどうかという提案があり、アーサー・フレデリック・シェルドンが1929年に書いて、私が翻訳した「奉仕の原則と保全の法則」を今年の5月に出版しました。シェルドンがロータリーを退会する1年前、世界大恐慌の年に書かれた、彼の最後の著作です。この本の中では奉仕と共に保全の必要性が説かれ、**He profits most who serves and conserves best** という新しいモットーを提唱しています。

次いで、先週出版したのが「シェルドンの森・・・ロータリーの真実を求めて」です。この本は、シェルドンのすべての著作をまとめて、それを詳しく解説したもので、この本を読めば、シェルドンが提唱しているロータリーの奉仕理念のすべてを理解することができます。

なお、今後シェルドンの著作のすべてを「シェルドン全集」として出版する予定で、シェルドンのロータリーにおける講演集である「シェルドン全集第1巻」はすでに校正の段階に入っています。

これらの出版物が入用な方は下記のアドレスにご連絡ください。代金は送料込1冊500円です。

なお収益は、「源流の会」ウェブ・サイトの管理運営と文献購入費に充てさせていただきます。

申込み先 「源流の会 会計担当幹事」 浅田進 s:asada@poppy.ocn.ne.jp